

第2回学校関係者評価委員会

実施日：令和5年9月5日（火）午後5時30分～

場 所：若草南小学校 校長室

参加者：学校関係者評価委員（学校評議員）・教職員

神山 栄和（藤田区自治会長）

佐藤 正敏（浅原区自治会長）

横森 晶子（主任児童委員）

後藤 啓伍（PTA会長）

小林 ゆか（PTA副会長）

小林 正彦（校長）

松田 晃一（教頭）

飯久保幸一（教務主任）

1 学校側から提案の内容

- ①学校関係者評価の趣旨
- ②本年度の学校経営方針並びに現状
- ③学校評価の方法について
- ④評価の全体的な傾向について
- ⑤教職員アンケートの内容と結果について
- ⑥まとめ：学校評価から見られる成果や課題、ならびに改善策について

2 協議された主な内容

- ①学校自己評価についての全体評価について
- ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
- ③今後の改善策について

《学校関係者評価書》

I 全体評価

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、平均点数は、全項目で3.2を上回り、学校長の指導のもと、学校教育目標達成のために全職員が努めていることがわかる。また、学校の多忙感が伝わるアンケート結果であった。

しかし、一つ一つの項目に目を向けると、明らかな有意性は見られないまでも昨年度からポイントが低くなっている項目や、プラス評価ではあるがポイントが相対的に低くなっている項目も見られる。

肯定的な回答が多い項目は、本校の強みとして、継続して取り組んでいくとともに、改善する必要のある項目については具体的な方策を立てて取り組むことに期待する。

【強みとなっている項目（平均点数が3.7以上）】

- ①子どもたちが、楽しく学校生活を送れるよう努めている
- ②すすんであいさつをする指導の充実に努めている
- ⑥児童理解に努め、不登校・問題行動等への予防に努めている
- ⑮保護者からの各種相談について、誠実に対応している

【弱みとなっている項目（平均点数が3.3以下）】

- ⑤家庭学習を定着させるために工夫している
- ⑧校務分掌は適切に分担され、意欲的に取り組める環境にある
- ⑬緊急時の対応(防災・防犯)について共通理解が図られ、計画的に訓練が行われている

II 第2回学校評議委員会の中で出された主な意見

○前期自己評価書について

- ・先生方の多忙感が伝わるアンケート結果である。
- ・「チーム若南」として、先生同士が連携、協働し、支えあって、よい雰囲気の仕事ができていることがうかがえる。
- ・「働き方改革」が叫ばれている。児童への教育に効率化は難しいので、すでに行っていると思うが、学校運営（校務）について、ICTの活用をより進めて効率化を図っていくことが必要。
- ・先生方ももちろん人間であり、得手不得手やいろいろな子どもたちや保護者、ほかの職員との間で大変な仕事であることは十分理解しているが、残念に感じる意見が見られた。
- ・どの職業もそうだが、チームとしての情報の共有、共通理解がとても大切だと思うが、難しいことでもある。
- ・教員の負担軽減のため、行事の持ち方の工夫が必要。例えば、運動会の平日開催を希望したい。
- ・学校経営方針を読み、感心した。また、学校運営の難しさを感じた。
- ・職員のアンケートに対して、しっかりとした考察や課題抽出ができている、PDCAサイクルが回っていると感じる。
- ・強み、弱みととらえた項目や前年度から平均点数が大きく良くなった項目、悪くなった項目は、もっと深掘したほうが良いと思われる。

○その他

- ・タブレット端末の活用について、①何年生から利用しているか、②どんな教科で使っているのか、③家へは持ち帰っているか、④使用にあたってのルールはあるか、⑤問題が発生したことがあるか。
- ・私たちの子どものころと違い、どんな人もどんな考えも認め合い受け入れる時代の教育は大変だと思う。これからも安心して子どもたちを通わせられる学校づくりをお願いしたい。
- ・子どもたちが毎日楽しく学校に通えているのは、日ごろの先生方のご指導のおかげです。大変感謝しています。
- ・学校の先生方の多忙さを実感した。世の中は「働き方改革」が進んでいるが、学校はいかがでしょう？
- ・健全な教育現場は、健康で元気な子どもと健康でおおらかな先生が築き上げると思い

- ます。学校に関係する方々健康を大事にしてください。
- ・子どもたちの些細な問題を見逃さないようお願いします。

Ⅲ 達成状況と改善策について

各アンケートの結果から、校長の学校経営案に基づいた教育活動が行われ、教職員と児童・保護者・地域との関係が良好であることがうかがえる。前期の取り組みを継続させていく中で、さらなる教育活動の充実を目指していきたい。

そのために、否定的な回答やポイントの下がってきたもの、特に、教職員の多忙化の改善及び授業の更なる充実への取り組みをどうしていくかを考え、それを重点課題としていく。